

初回作成日 2007/03/19
改訂日 2024/04/01

安全データシート

1. 化学物質等及び会社情報

化学物質等の名称 RGキット モルタル用硬化剤
会社名 レッドコーティングス株式会社
住所 愛知県名古屋市中川区打中2丁目164番地
電話番号 052-655-4667
緊急連絡電話番号 052-655-4666
FAX番号 052-655-4667

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 土木・建築材料(工業用)
使用上の制限 上記のみ。薬事、家庭用等の用途には用いない。

2. 危険有害性の要約 GHS分類

物理化学的危険性 有機過酸化物 区分外
健康に対する有害性 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 区分2A
皮膚感作性 区分1
生殖毒性 区分1B
特定標的臓器(単回ばく露) 区分3(気道刺激性)
環境に対する有害性 水生環境有害性 短期(急性) 区分1
上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しない
(分類対象外)か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語 危険有害性情報

危険
H319 強い眼刺激
H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H335 呼吸器への刺激のおそれ
H360 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
H400 水生生物に非常に強い毒性

注意書き 安全対策

使用前に取扱説明書入手すること。(P201)
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。(P202)
ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。(P261)
粉じん、ミスト、ヒュームの吸入を避けること。(P261)
容器を密閉しておくこと。(P233)
取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)
取扱い後はよく眼を洗うこと。(P264)
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。(P271)
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。(P272)

		<p>環境への放出を避けること。(P273)</p> <p>保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)</p> <p>呼吸用保護具を着用すること。(P284)</p> <p>皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。(P302+P352)</p> <p>皮膚又は髪に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。(P303+P361+P353)</p> <p>吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)</p> <p>気分が悪い時は医師に連絡すること(P312)</p> <p>眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)</p> <p>ばく露又はその懸念がある場合：医師に連絡すること。(P308+P311)</p> <p>ばく露又はその懸念がある場合：医師の診察／手当てを受けること。(P308+P313)</p> <p>気分が悪い時は、医師の診察／を受けること。(P314)</p> <p>特別な処置が必要である。(P321)</p> <p>皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。(P333+P313)</p> <p>皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。(P332+P313)</p> <p>眼の刺激が続く場合：医師の診断、手当てを受けること。(P337+P313)</p> <p>呼吸に関する症状が出た場合：医師に連絡すること。(P342+P311)</p> <p>汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。(P362+P364)</p> <p>火災の場合：適切な消火剤を使用すること。</p>
	応急措置	
	保管	<p>換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。(P403+P233)</p> <p>換気の良い場所で冷所で保管すること。涼しいところに置くこと。(P403+P235)</p> <p>施錠して保管すること。(P405)</p>
	廃棄	<p>内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)</p>
他の危険有害性		<p>皮膚かぶれの危険性がある</p> <p>熱、火花および火炎で着火することがある。</p> <p>強烈な摩擦は避ける。</p> <p>アミン類／強酸／強アルカリ／遷移金属化合物／その他還元性物質等の異物との接触を避ける。</p>
GHS分類に該当しない他の危険有害性		
	重要な徴候及び想定される非常事態の概要	<p>熱や直射日光、強酸、強アルカリ、遷移金属化合物やその他還元剤などとの接触・混合により反応し、発熱・火災を起こすことがある。また、急激に進むと爆発する可能性がある。</p>

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物等の区別

混合物

化学名又は一般名
別名

アクリル樹脂硬化剤
キット プライマー用硬化剤

化学名又は一般名	CAS番号	含有量(% w/w)	化審法(ENCS)/安衛法(ISHL)番号
過酸化ベンゾイル	94-36-0	30	3-1349
フタル酸ジシクロヘキシル	84-61-7	30	3-1311
その他	非公開	60	非公開

4. 応急措置

一般的アドバイス

この安全データシートを担当医に見せる。

吸入した場合

新鮮な空気の場所へ移動する。直ちに医師の手当てを受ける。
患者を温かく保温して、安静を保つ。
呼吸が停止した場合には人工呼吸を施す。
呼吸が困難な場合には酸素吸入を行う。
医師の手当、診断を受けること。
嘔吐が生じたときは、嘔吐物が肺に入らないように頭を低く保つ。
ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。

皮膚に付着した場合

多量の水と石鹼で洗うこと。
痛みや炎症が認められたときは速やかに医師の手当てを受ける。

眼に入った場合

汚染された衣類等は速やかに脱ぎさる。
直ちに清浄な水で15分以上洗眼する。
瞼の裏まで完全に洗浄する。
眼球を傷つける可能性があるのでこすらない。
医師の手当、診断を受けること。
コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

飲み込んだ場合

嘔吐が自然に生じたときは、気道への吸入が起きないように頭を横向きにする。
意識がある場合、水でよく口の中を洗浄する。
無理に吐かせないこと。
医師の手当、診断を受けること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

強い眼刺激
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
生殖能または胎児への悪影響のおそれ
呼吸器への刺激のおそれ

応急措置をする者の保護

吸入、摂取及び皮膚と眼への接触を避ける。
ばく露の危険があるときは、個人用防護具に関する第8章を参照すること。
汚染された衣服や保護具を取り除く。

5. 火災時の措置 適切な消火剤

粉末消火剤、二酸化炭素、水噴霧、砂、強化液消火剤、ハロゲン化物、一般の泡消火剤。

使ってはならない消火
特有の危険性

情報なし
強い衝撃を加えると、発熱、火災、爆発するおそれがある。
強烈な摩擦が加わると、発熱、火災、爆発するおそれがある。
火災または強い熱により激しく発熱、爆発することがある。
火災によって刺激性及び/又は毒性のガスを発生するおそれがある。
火災に巻き込まれると、爆発的に反応し、爆発するおそれがある。
下水道へ流入すると、爆発、火災、環境への影響を生じるおそれがある。

有害燃焼副産物

二酸化炭素(CO₂)
一酸化炭素

特有の消火方法

分解生成物を含む有毒ガス
関係者以外立ち入り禁止。
散水して容器／タンクを冷却する。
初期消火:適切な消火剤を用い、一気に消火する。
適切な保護具を着用する。
安全な距離から消火する。
作業は風上から行う。
容器及びタンクが火炎に包まれた場合は、爆発/破裂の危険があるので速やかに避難する。
大規模火災の場合:
適切な消火剤を用いて空気を遮断する。
泡消火剤
周辺火災の場合:
安全に対処可能であれば、損傷を受けていない容器を火災現場から離す。
周囲の可燃物除去、周囲への散水などを行い、延焼を防止する。

消火を行う者の保護

消火を行う者は、自給式呼吸器具を含めて完全な防護服を着用する。安全な距離と防御できる位置から行う。
消火は風上から行い、煙・燃焼ガスの吸入を避ける。

6. 漏出時の措置
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

作業は風上から行う。

こぼれや漏れが起きている場所から風上に避難させる。
周辺の住民に漏洩の生じたことを通報する等の適切な措置を行う。
関係者以外立ち入り禁止。
付近の発火源となるものを取り除く。
着火した場合に備え、消火器を準備しておく。
吸入、採取及び皮膚と眼への接触を避ける。
保護具を着用する。
詳細はセッション8を参照してください。

環境に対する注意事項	<p>製品がこぼれるなどした場合は、強い摩擦、衝撃を与えないように注意する。</p> <p>安全に対処できるならば漏えいを止めること。</p> <p>十分な換気を確保する。</p> <p>火気厳禁</p> <p>回収したものは、廃棄上の注意の項目に記載の方法で処理する</p>
封じ込め及び浄化の方法及び機材	<p>製品が河川、湖水または排水管等を汚染した場合は、関連当局に連絡する。</p> <p>河川または下水システムに排水しない。</p> <p>環境中に排出してはならない。</p> <p>強い摩擦、衝撃を与えないように注意しながら回収する。</p>
二次災害の防止策	<p>飛散しないように注意する。</p> <p>漏出物を扱う時：</p> <p>廃棄に備え、適切な密閉容器に保管する。</p> <p>火花の出る道具は用いない。</p> <p>密閉容器に保管すること。</p> <p>全ての発火源を速やかに取り除き、着火した場合に備えて、消火剤を準備する。</p> <p>火気厳禁</p> <p>万一、河川、公共水路等に流れ込んだ場合は、直ちに地方自治体の公害担当者に報告する。</p> <p>排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。</p>

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策	<p>法の定めに従い整備された作業環境下で作業する：</p> <p>消防法</p> <p>帯電する可能性があるのでアースを取る等の静電気対策をする。</p> <p>粉塵爆発の危険性も考えられるので大量の取扱には注意する。</p> <p>機器類は防爆構造とし、設備は静電気対策を実施する。</p> <p>火、火花および熱した表面に近付けないようにする。</p> <p>過熱したり、摩擦、衝撃を与えてはならない。アミン類／強酸／強アルカリ／遷移金属化合物／その他還元性物質等の異物との接触を避ける。</p> <p>紫外線をカットした蛍光灯下で作業する。</p> <p>静電気対策（アースやボンディング、帯電防止作業靴と作業服の着用、アースされた導電性床の採用、等）を講じる。</p> <p>本品の分解を避ける為、使用する機器、設備の材質はステンレス／ガラスライニング／硝子／ポリエチレン等を用い、鉄／銅合金／鉛／ゴム等は避ける。</p>
局所排気、全体換気	局所排気装置（または適切な排気装置）が備わった場所でのみ取り扱う。	
火災及び爆発の予防	火花の出る道具は用いない。 防爆型の機器を使用すること。	
安全取扱注意事項	保護具を着用する。	

保管	接触回避	製品が漏れ、あふれ、又は飛散しないようにする。 関係者以外立ち入り禁止。 みだりに粉じんを飛散させない。 眼に入れない、皮膚につけない、又は衣服につけな 粉塵等を吸い込まない。 取扱いの都度、容器を密閉する。 製品を入れてあったから容器は、一定の場所に集積 する。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きず る等粗暴な行為をしない。
	衛生対策	取扱い後は、手、顔等をよく洗いうがいをする。 休憩場所に汚染された保護具を持ち込んでほならな 使用中は飲食及び喫煙を禁止する。
	安全な保管条件	防爆型の電気機器を使用すること。 静電気放電による発火を回避するために、装置の金 属部分をすべて接地する。 火気厳禁 施錠して保管する。 熱源から離しておく。 直射日光を避ける。 容器を密閉し、乾燥した換気の良い場所に保管する。 消防法の定めに従い保管する。 冷所に保管 長期保管を避ける。
	混触禁止物質	関係者以外立ち入り禁止。 アミン類／強酸／強アルカリ／遷移金属化合物／そ の他還元性物質等から遠ざける。 食品、飲料水、動物の餌から離しておく。 直射日光を避ける。
	推奨された保管温度 安全な容器包装材料	5 ～ 30℃ 消防法及び／又は国連危険物輸送勧告で規定されて いる容器を使用する。 本品の分解を避ける為、使用する機器、設備の材質 はステンレス／ガラスライニング／硝子／ポリエチレン 等を用い、鉄／銅合金／鉛／ゴム等は避ける。

8. 暴露防止及び保護措置

成分	CAS番号	指標 (曝露形態)	管理濃度/基準 濃度/許容濃度	出典
過酸化ベンゾイル	94-36-0	TWA	5mg/m3	ACGIH

設備対策

製品を取り扱う際：
できるだけ密閉された装置、機器又は局所排気装置を
使用する。
この製品を取り扱う作業場には洗眼器、安全シャ
ワー、手洗いを設置し、その位置を明確に表示するこ
防爆型の局所排気装置を使用する。

保護具	呼吸用保護具	低濃度かつ短時間、又は短期間曝露の場合： 防塵マスク(型式検定に合格したもの) 酸素濃度が低い、又は有害物質の気中濃度が高い場合：
	手の保護具	送気マスク又は自給式呼吸器 ネオプレン、ニトリルゴム手袋 手袋に劣化等の兆候がある場合は、手袋を破棄し、交換しなければならない。
	眼の保護具	密着性の高いゴーグルを着用する。
	皮膚及び身体の保護具	耐薬品性保護衣(帯電防止) 耐薬品性保護靴 必要に応じて着用： 耐溶剤性エプロン 保護面を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	固体粉末
色	白色
臭い	特異臭
融点／凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸点範囲	測定不能(分解するため)
可燃性(液体)	データなし
爆発下限界及び爆発上限界／可燃限界	データなし
引火点	>110°C(セタ密閉式)
自然発火温度	データなし
分解温度	95.4°C(DSC)
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	データなし
n-オクタノール／水分配係数(log 値)	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び／又は相対密度	データなし
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

過酸化ベンゾイルとして

融点・凝固点	103.5°C
--------	---------

10. 安定性及び反応性

反応性	情報なし
化学的安定性	熱、光(日光)に対し不安定。
危険有害反応可能性	アミン類／強酸／強アルカリ／遷移金属化合物／その他還元性物質等との接触により分解が促進される。 発火のおそれ 熱や直射日光、強酸、強アルカリ、遷移金属化合物やその他還元剤などとの接触・混合により反応し、発熱・火災を起こすことがある。また、急激に進むと爆発する可能性がある。

避けるべき条件

本品の分解を避ける為、使用する機器、設備の材質はステンレス／ガラスライニング／硝子／ポリエチレン等を用い、鉄／銅合金／鉛／ゴム等は避ける。

推奨温度より高い温度

紫外線

日光への曝露

高温表面

熱、炎、火花。

静電気放電

強烈な摩擦／衝撃は避ける。

混触危険物質

アミン類／強酸／強アルカリ／遷移金属化合物／その他還元性物質等の異物との混触禁止

鉄／銅合金／鉛／ゴム等は避ける。

危険有害な分解生成物

データなし

その他のデータ

火災時の燃焼により、一酸化炭素、分解生成物などの有害ガスが発生する。

11. 有害性情報

急性毒性

データが不足しているので分類されていない

皮膚腐食性／皮膚刺激性

データが不足しているので分類されていない

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

強い眼刺激

呼吸器感受性

データが不足しているので分類されていない

皮膚感受性

アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

生殖細胞変異原性

データが不足しているので分類されていない

発がん性

データが不足しているので分類されていない

生殖毒性

生殖能または胎児への悪影響のおそれ

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

呼吸器への刺激のおそれ

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

データが不足しているので分類されていない

誤えん有害性

データが不足しているので分類されていない

過酸化ベンゾイルとして

急性毒性

経口

ラットのLD50 > 5,000 mg/kg(SIDS(2004))に基づき、区分外とした。

吸入: 粉じん、ミスト

ラットLC0 > 24.3 mg/L(換算値: 19.0 mg/L)(SIDS(2004))に基づき、区分外とした。

皮膚腐食性／刺激性

皮膚に対し、「軽度の刺激性」又は「刺激性なし」のデータがあり、結論「極く軽度の皮膚刺激性物質」としている(SIDS(2004))ため、本物質には軽微ないし軽度の刺激性があると考えられ、JIS 分類基準の区分外(国連分類基準の区分3)とした。分類ガイダンスの改訂に従い、「JIS 分類基準の区分外(国連分類基準の区分3)」を明記した。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性

ウサギの眼に適用後、24, 48, 72時間後に刺激性が認められた(SIDS(2004))が、試験又は試験方法によって刺激性の程度に差が認められた。さらに、本物質は、EU DSD分類において「Xi; R36」、EU CLP分類において「Eye Irrit. 2 H319」に分類されている。以上の情報に基づき区分2とした。なお、細区分の情報(ウサギのドレイズ法またはヒトでの知見が軽微で7日以内に回復することを示す情報)が得られなかったため「区分2」に分類した。

皮膚感作性	ヒトのマキシマイゼーション試験の結果、及び職業ばく露による疫学的研究で皮膚感作性が確認されている(SIDS(2004))。産衛学会勧告(2012)では皮膚感作性第2群物質、日本職業・環境アレルギー学会特設委員会(2004)の日本職業・環境アレルギー学会リストには皮膚感作性物質として掲載されている。さらに、本物質は、EU DSD分類において「R43」、EU CLP分類において「Skin Sens. 1 H317」に分類されている。以上の情報に基づき区分1とした。
生殖細胞変異原性	In vivoでは、マウスを用いる優性致死試験(SIDS(2004)、IARC 71(1999)、JECFA(2006))、マウスの赤血球を用いる小核試験(SIDS(2004))で陰性である。さらに、in vitroでは、細菌の復帰突然変異試験(SIDS(2004)、JECFA(2006)、NTP DB(Access on June 2013))及び哺乳類培養細胞を用いる染色体異常試験(SIDS(2004)、JECFA(2006)、IARC 71(1999))で陰性である。
発がん性	IARC(1999)でグループ3、ACGIH(7th, 2001)でA4に分類しているため、分類できないとした。
生殖毒性	ラットの経口投与による生殖発生毒性スクリーニング試験(OECD TG 422)において、雄親動物に生殖器官重量の減少及び精巣の軽度変性がみられたが、生殖能(交配、妊娠)に影響はなく、児動物に最小限の発生影響(矮小児の頻度増加、体重増加抑制)が見られた(SIDS(2004))との記述がある。しかし、スクリーニング試験結果からは区分外に分類できず、データ不足のため分類できないとした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒトの鼻、のどへの刺激性ありの情報(ACGIH,2001)から、区分3(気道刺激性)とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データ不足のため分類できない。
フタル酸ジシクロヘキシルとして 急性毒性	経口 ラットを用いた経口投与試験のLD50値>3,200 mg/kg(NICNAS(2008)、CERI・NITE有害性評価書(2008))及び> 40,000 mg/kg(環境省リスク評価第3巻(2004))から区分外とした。
経皮	ウサギを用いた経皮投与試験のLD50値>300mg/kgが、NICNAS(2008)、CERI・NITE有害性評価書(2008)に記述されているが、区分の特定ができないので分類できない。
吸入: 粉じん、ミスト	ラットを用いた1時間吸入暴露試験におけるLC50値は>3.2mg/L(CERI・NITE有害性評価書(2008))との記述がある。固体なので粉じん基準を適用すると、4時間換算LC50値は>0.8mg/Lより、区分を特定できないので分類できない。
皮膚腐食性/刺激性	ウサギを用いた皮膚刺激性/腐食性試験(OECD TG 404)で「not irritating」、モルモットを用いた試験で「slightly irritating」(CERI・NITE有害性評価書(2008))と記載されており、区分外とした。
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	ウサギを用いた眼刺激性/腐食性試験(OECD TG 405)で「not irritating」とCERI・NITE有害性評価書(2008)に記載されているので、区分外とした。

呼吸器感作性	データがないので分類できない。なお、ヒトへの影響に関し、喘息を示唆する報告がHSDB(2002)にみられた。
皮膚感作性	モルモットを用いた試験で感作性はない(CERI・NITE有害性評価書(2008)、IUCLID(2000))との記述があるが、データ不足のため分類できない。
生殖細胞変異原性	in vitro変異原性試験(ネズミチフス菌を用いたAmes試験)が陰性とのデータがNTP DB(Access on October2008)にあるが、in vivo試験のデータはないので、分類できない。
発がん性	主要な国際的評価機関による評価がなされておらず、データ不足のため分類できない。
生殖毒性	雌ラットを妊娠0日から哺育21日目まで経口投与した試験で「親動物に体重の低値、肝臓及び副腎の重量高値、小葉中心性肝細胞腫大が見られた用量で、妊娠期間延長、産児数減少及び児動物の影響として、雌雄で体重低値、腎臓・尿管欠損、雄で腎臓、精巣、精囊、精巣上体、前立腺、肛門-球海綿体筋重量低値、精のう欠損、精巣上位低形成・無形性、小精巣、精巣内生殖細胞消失、ライディッヒ細胞過形成、精巣上位管腔内精子消失、雌で子宮低形成・無形性、卵巣及び卵管の無形性、腎臓皮髄境界部鉍質沈着が見られた」(CERI・NITE有害性評価書(2008))との記述がある。以上、親動物に軽微な影響がみられる用量で、次世代に影響が見られたことにより区分1Bとした。なお、雌雄ラットを用いた2世代繁殖毒性試験で「1,200ppm以上投与群のF0及びF1雄雌親動物に、体重増加抑制、摂餌量の減少、肝臓のび漫性肝細胞肥大、甲状腺ろ胞上皮細胞の肥大が見られ、児動物の影響として、6,000ppm群のF1児動物の雄及び1,200ppm群以上のF2児動物の雄で肛門生殖突起間距離(AGD)の短縮及び乳輪の発現がみられた」、「F1雄親動物の精子数の減少が認められたが、交尾能及び受胎能に変化はなかった」(CERI・NITE有害性評価書(2008)、環境省リスク評価第3巻(2004))旨の記述もある。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	環境省リスク評価第3巻(2004)に「眼、皮膚、気道を刺激する」との記述があるので、区分3(気道刺激性)とした。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	雌雄ラットを用いた混餌による2世代繁殖毒性試験で「雄雌親動物F0の肝臓にび漫性肝細胞肥大、甲状腺ろ胞上皮細胞の肥大が見られた」(CERI・NITE有害性評価書(2008)、環境省リスク評価第3巻(2004))旨の記述があり、一次文献(経済産業省(2003):「二世世代繁殖毒性試験報告書」フタル酸ジシクロヘキシル)を確認したところ、「肝臓の変化は薬物代謝酵素の誘導と関連して惹起された際に起こる生体内の適応反応によるものと推察される。また、甲状腺ろ胞上皮細胞の肥大は、肝細胞肥大に付随する変化と考えられる」との記述がある。また、90日間経口投与試験で、区分2のガイダンス値の範囲外であるが「肝臓、腎臓の組織学的変化が見られた」(CERI・NITE有害性評価書(2008)、環境省リスク評価第3巻(2004))との記述がある。以上、本物質の投与により肝臓に影響が見られているが、生体内の適応反応によるものと推察されるとの考察もあるため、分類できない。

12. 環境影響情報

水生環境有害性 短期(急性)
水生環境有害性 長期(慢性)
生態毒性
残留性・分解性
生体蓄積性
土壌中の移動性
オゾン層への有害性

水生生物に非常に強い毒性
データなし
データなし
データなし
データなし
データなし
データなし
モントリオール議定書の付属書に列記されている成分を含まない

過酸化ベンゾイルとして

水生環境有害性 短期(急性)

甲殻類(オオミジンコ)の48時間
EC50=0.07mg/L(SIDS、2004)から、区分1とした。

水生環境有害性 長期(慢性)

急速分解性があり(BODによる分解度:84%(既存化学物質安全性点検データ))、かつ生物蓄積性が低いと推定される(log Kow=3.46(PHYSPROP Database、2005))ことから、区分外とした。

フタル酸ジシクロヘキシルとして

水生環境有害性 短期(急性)

藻類(Pseudokirchneriella subcapitata)の72時間
ErC50、甲殻類(オオミジンコ)の48時間EC50、魚類(メダカ)の96時間LC50値がいずれも>2.0mg/L(環境庁生体影響試験、1999)であり、水溶解度付近まで急性毒性値が報告されていないことから区分外とした。

水生環境有害性 長期(慢性)

難水溶性物質であり(水溶解度:0.2(20°C)、4(24°C) mg/L(PHYSPROP Database、2008;初期リスク評価書、2008)、水溶解度付近までの濃度で急性毒性が報告されていないものであるが、急速分解性がある(良分解性;4週間標準法でBOD:68.5%(既存点検、1977))ことから、区分外とした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

本製品を排水溝、水路、地面に流さないこと。
家庭用廃棄物、ごみ又は他の固形廃棄物と一緒に廃棄しないこと。

特別管理産業廃棄物として処分する。

廃棄物の処理は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に、内容を明示して処理を委託する。

加水分解処理する。

加水分解する場合は、水=80部/水酸化ナトリウム=20部/界面活性剤=0.3部からなる分解液に、その1/10以下の量の有機過酸化物を攪拌しながら徐々に添加(順序を間違えると急激分解を起こす恐れがあるので注意する)し、添加終了後12~24時間攪拌して完全に分解後、廃水処理をする。

地方自治体の規制および「廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃掃法)」に従って、廃棄する。

汚染容器及び包装

この物質及び容器は、危険有害廃棄物として処分すること。

空の容器は、リサイクルまたは廃棄のために、認可を受けた廃棄物処理業者に委託する。

空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意
国際規制

海上規制情報	IMOの規定に従う。
UN No.	3077
Proper Shipping Name	Environmentally Hazardous Substance, Solid, N.O.S.
Class	9
Packing Group	III
Marine Pollutant	Applicable
航空規制情報	ICAO/IATAの規定に従う。
UN No.	3077
Proper Shipping Name	Environmentally Hazardous Substance, Solid, N.O.S.
Class	9
Packing Group	III

国内規制

陸上規制情報	消防法の規定に従う 道路法の規定に従う 船舶安全法の規定に従う。
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
国連番号	3077
品名	環境有害物質、固体、N.O.S.
国連分類	9
容器等級	III
海洋汚染物質	該当
航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号	3077
品名	環境有害物質、固体、N.O.S.
国連分類	9
等級	III

特別の安全対策

当該製品が転落し、又は製品を収納した運搬容器が落下し、転倒し若しくは破損しないように積載すること。転倒、転落その他衝撃を与えてはならない。
漏洩防止のため、転倒、転落防止措置をする。
容器の上部を上にし、横置き／逆置きは絶対にしな
非危険物に属しても、本品の分解を促進する恐れのある物と混載輸送しない。
積み卸しの際は火気厳禁とする。
輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に
行う。

ここに提供されている輸送分類は、情報の目的だけのためで、本安全データシートの中で解説されるように開梱された材料の特性のみに基づいています。輸送分類は、交通手段、パッケージサイズと地域や地方の規則の変更により、変更される可能性があります。

緊急時応急措置指針番号 171

15. 適用法令

消防法 非危険物

労働安全衛生法

製造等が禁止される有害物	非該当
製造の許可を受けるべき有害物	非該当
健康障害防止指針公表物質	非該当

変異原性の認められた化学物質 (既存化学物質)	非該当
変異原性の認められた化学物質 (新規届出化学物質)	非該当
名称を通知すべき危険物及び有害物 法第57条の2(施行令別表9)	過酸化ベンゾイル(含有量:30%) フタル酸ジシクロヘキシル(含有量:30%)
名称を表示すべき危険物及び有害物 法第57条(施行令第18条)	過酸化ベンゾイル フタル酸ジシクロヘキシル
がん原性物質 (労働安全衛生規則第577条の2)	非該当
皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づ く不信統制の保護具等の使用義務物質	区分:皮膚刺激有害性物質 過酸化ベンゾイル、フタル酸ジシクロヘキシル
特定化学物質予防規則	非該当
鉛中毒予防規則	非該当
四アルキル鉛中毒予防規則	非該当
有機溶剤中毒予防規則	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)	非該当
火薬類取締法	非該当
高圧ガス保安法	非該当
特定有害廃棄物輸出入規制法 (パーゼル法)	廃棄物の有害成分・法第2条第1項第1号イに規定 するもの(平5三省告示2号)
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	特別管理産業廃棄物

16. その他の情報

本SDSにおいて労働安全衛生法の通知対象物質の濃度が幅表示の場合は、営業秘密である場合を含みます。

参考文献

使用原料のSDS等
NITE 化学物質総合情報提供システム

その他の略語の全文

AIIC - オーストラリアの工業化学品インベントリ; ANTT - ブラジル国家輸送機関; ASTM - 米国材料試験協会; bw - 体重; CMR - 発ガン性、変異原性、生殖毒性があるとされる物質; DIN - ドイツ規格協会基準; DSL - 国内物質リスト(カナダ); ECx - 任意のX%の反応を及ぼすと考えられる濃度; ELx - 任意のX%の反応を及ぼすと考えられる負荷割合; EmS - 緊急時のスケジュール; ENCS - 化審法の既存化学物質リスト; ErCx - 任意のX%の反応を及ぼすと考えられる成長率; ERG - 緊急対応の手引き; GHS - 世界調和システム; GLP - 試験実施規範; IARC - 国際がん研究機関; IATA - 国際航空運送協会; IBC - 危険化学品のばら積運送のための船舶の構造及び設備に関する国際規則; IC50 - 50%阻害濃度; ICAO - 国際民間航空機関; IECSC - 中国現有化学物質名録; IMDG - 国際海上危険物規程; IMO - 国際海事機関; ISHL - 労働安全衛生法(日本); ISO - 国際標準化機構; KECI - 韓国既存化学物質名録; LC50 - 50%致死濃度; LD50 - 50%致死量(半数致死量); MARPOL - 船舶による汚染の防止のための国際条約; n.o.s. - 他に品名が明示されているものを除く; Nch - チリ規則; NO(A)EC - 無有害性影響濃度; NO(A)EL - 無有害性影響レベル; NOELR - 無有害性影響負荷割合; NOM - メキシコ公式規則; NTP - 米国国家毒性プログラム; NZIoC - ニュージーランド化学物質台帳; OECD - 経済協力開発機構; OPPTS - 化学物質安全性・公害防止局; PBT - 難分解性・生体蓄積性・有毒性(物質); PICCS - フィリピン化学物質インベントリ; (Q)SAR - (定量的)構造活性相関; REACH - 化学物質の登録、評価、認可および登録(REACH)に関する規則(EC) No 1907/2006; SADT - 自己加速分解温度; SDS - 安全データシート; TECI - タイに既存の化学物質のインベントリ; TCSI - 台湾化学物質インベントリ; TDG - 危険物輸送; TSCA - 有害物質規制法(米国); UN - 国連; UNRTDG - 国際連合危険物輸送勧告; vPvB - 非常に難分解及び非常に高蓄積性; WHMIS - 作業場危険有害性物質情報システム

記載内容は、現時点で入手できる資料、情報にもとづき、当該製品の安全な取り扱い、使用、処理、保管、輸送、廃棄、漏洩時の処理等のために作成されたものですが、記載されている情報はいかなる保証をするものではなく、品質を特定するものでもありません。また、このSDSのデータはここで指定された物質についてのみのものであり、指定されていない工程での使用や、指定されていない材料と組み合わせた使用に関しては有効ではありません。